

小児看護

THE JAPANESE JOURNAL OF CHILD NURSING, MONTHLY

9

Vol.44 No.10 SEPTEMBER

2021

糖尿病のある 子どもの看護

小児糖尿病看護の 新しいかたち

連載

もっと知ろう! 障害がある子どもと
家族のくらしの支え方
子どものサインの読み取り

児童養護施設の看護実践
児童養護施設の感染症対策



へるす出版

佐藤聡美 Sato Satomi

聖路加国際大学公衆衛生大学院准教授

第5回 看護師は二度憧れる

これが先輩か。そういう言葉の響きも好きだった。私は中学校に入学したときに、セーラー服を着ている3年生がとても大人びて見えた。ついこの間までランドセルを担いでいた私が、急に大人の世界に足を踏み入れた気分になった。私が何の委員であったかは忘れたが、3年生の女子学生が委員長を務めていた。先輩に囲まれて、私は圧倒されていた。そのなかでも、長い髪の毛と優しい表情で議題を進めていく委員長の悠然とした姿に、私は「憧れ」た。小学校では味わえない感情だった。

新人看護師が初めて出会う先輩にプリセプターがいる。看護現場で公認された、教える-教えられる関係である。1970年ごろから英語圏で始まった「プリセプター制度」を、日本は1980年代後半から導入したらしい。特に、何でも制度化することに慣れている米国は、誰が誰に対してどんな方法で何を教育するのか、について明確にしているようだ。プリセプターは、新人看護師(プリセプティ)が学べたかどうかを「口頭で説明できる」「書ける」「実施する」など、行動で評価するらしい。評価された新人も、毎日1個ずつできることが増え、達成感が自信に変わっていく。看護手技を確実に伝達することに焦点が当てられた、ある意味きわめてドライな関係である。教える人の責任が重視され、病院全体として、系統立てて教育を行える利点がある。

しかし、ここには日本でいうところの、先輩-後輩という関係のニュアンスはない。というのも、英語圏

には、厳密に「先輩」を表す言葉が存在しないからだ。先輩は、上司とも違う。しかし、そのニュアンスが英語にないため、先輩と後輩の関係は、年齢差や階級の違いたとも誤解されている。平たくいうと、欧米の人には感覚として「先輩」がわからないのである。

だが、日本には「先輩」がいる。系統的な教授法を身につけていないので、教師でもない。もちろん上司でもない、斜め上の関係である。プリセプターもまた、自身の先輩と新人の間に板挟みになり、看護をしながら新人指導をする難しさに苦悶する。忙しいときに、新人に声をかけられると、いら立ってしまうこともあるが、そのときにふと、自分のかつてのプリセプターの気持ちがわかるようになったりする。

そして、看護師はいつも子どもが憧れる職業である。プリセプティである後輩は、子どもの頃に看護師に憧れた人たちである。そして、今、医療現場において憧れの先輩看護師と出会う。患者さんの容態を見守りながら、どの時点で、医師に連絡するのか迷う姿。薬剤の投与量を間違えていないか、慎重になる姿。新人看護師は、生殺与奪の権にかかわる先輩を見て、初めて看護の意味を知る。そして、再び、先輩に憧れる。今度はより深く、より現実的に。先輩のようになりたいと研鑽を積むから、困難を乗り越えられるのである。このような制度運用が成功している病院では、先輩は慕われ、後輩は可愛がられている。

佐藤聡美

さとう・さとみ

聖路加国際大学公衆衛生大学院准教授。博士、心理学者。臨床心理士、公認心理師。富山県高岡市出身。米国のBellevue Community Collegeを卒業後、お茶の水女子大学大学院修了。国立成育医療研究センターにおいて小児がんの臨床と研究を行う。小児がんの子どもと家族を支えるエゴノキクラブを主宰する。お茶の水女子大学特任講師を経て、現職。